

調剤薬局の立地に係る許容性について

調剤薬局に係る懸念事項

- 調剤薬局の供給力（取扱い薬種量・在庫量など）は顧客（精神疾患患者）量に影響を受けるため、安定的な調剤供給には一定程度の顧客見込みが必要であり、顧客が分散・低減すると供給力が下がる可能性が高い
- 供給力の低い調剤薬局では処方に対応できない場合があり、疑義照会により処方の変更等を余儀なくされ、服薬治療に影響が生じる（自立支援医療機関制度を利用する精神疾患患者は、処方内容に応じた調剤薬局の変更が困難）
- がんC敷地内に立地する場合は、法規制上の整理が必要（敷地内薬局と判断されると調剤報酬減点：特別調剤基本料）
- 自家用車以外の通院手段の患者における移動の負担を考慮すると、薬局は病院一名取駅間のバス路線上かつ停留所近傍に立地していることが重要

1. 調剤薬局の立地に応じた各種リスクについて

青：条件付き許容、赤：許容困難

2. 供給不安の解消や患者の利便性向上に向けた検討

		調剤薬局の立地（病院から調剤薬局までの距離）							
		近	【既存】 がんC最寄り 薬局 (約1.0km)	増田西市街化 編入区域 (約1.2km)	【既存】 精神C最寄り 薬局 (約2.0km)	【既存】 名取駅西口 周辺薬局 (約2.7km)	遠		
法規制	都市計画法上 の新規立地規制	市街化調整区域 のため要地区計 画	市街化調整区域 のため要地区計 画	市街化調整区域 であるが一定の 条件下で立地可	市街化区域 のため立地可	市街化調整区域 であるが一定の 条件下で立地可	市街化区域 のため立地可		
	薬機法 (設置場所・ 独立性判断)	敷地内薬局と 判断された場合 は調剤報酬減点	調剤報酬への 影響なし	調剤報酬への 影響なし	調剤報酬への 影響なし	調剤報酬への 影響なし	調剤報酬への 影響なし		
顧客 (通院 手段 分散 可能性) 毎	自家用車	低	低	中	低	中	大		
	バス タクシー	低	低	中	中	大	中		
	徒歩 自転車	低	低	中	中	中	大		
	総合評価	顧客確保可	顧客確保可	顧客分散	顧客分散	顧客分散拡大	顧客分散拡大		
調剤供給力等 ○問題なし △不安あり ×問題あり		供給力○ 経営○	供給力○ 経営○	供給力△ 経営△	供給力△ 経営△	供給力× 経営×	供給力× 経営×		
薬局規模		分包作業 スペース 確保可能	分包作業 スペース 確保可能	要改築 (2階建て)	十分な敷地 の確保必要	分包作業 スペース 確保済み	要確認		